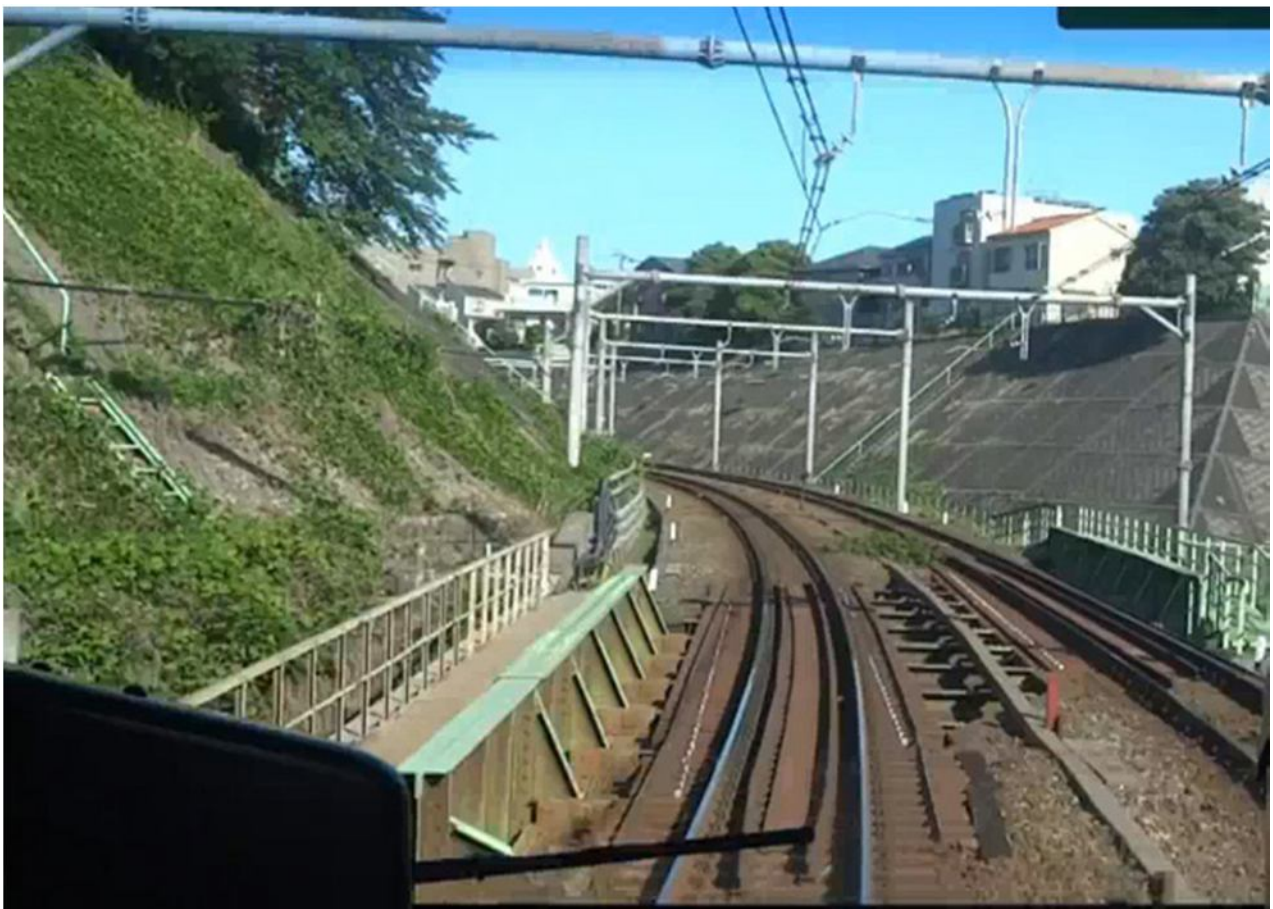


「田端の葛」

山手線は環状運転をしているので、丸く全部が「山手線」と思っている方が多いと思いますが、実はちがいます。JRの線区には「戸籍」のようなものあって、正式な山手線の区間は品川～新宿～田端間です。田端・東京間は「東北線」、東京・品川間は「東海道線」の区間を借りて電車が走っています。しかし、車内アナウンスで「この電車は田端から東北線に入ります。」と言ったり、駅のアナウンスで「次の2番線は、東北線・東海道線経由の山手線渋谷方面です。」なんて言ったら、乗客は混乱するだけです。だから、便宜的に全部「山手線」と呼んでいるのです。(正確には新宿～代々木間だけは、山手線と中央線の戸籍が重なっている、非常に珍しい区間です。)

その山手線の「終点」の田端駅近く・・・駒込方面から田端方面の電車に乗ると、田端駅構内に入る直前に、右に大きくカーブして切通しを通過します。そのあたりのコンクリート斜面に、クズの大群落があります。子どもの頃に母と山手線に乗った時、「あの草はなあに？」と聞いたことがあります。母は「クズと言う植物ですよ。」と教えてくれました。私は「葛」という字を知らなかったので、「屑」の意味だと思い、ずいぶんひどい名前を植物につけるんだなと思い、その植物には興味を失ってしまいました。



「山手線田端駅付近の切通し」 運転席のすぐ後ろで撮影。この写真は、田端から駒込方面へ向かうところ。下町(低地)と山の手(武蔵野台地)の境の、「段丘崖」を登る坂です。鉄道は急勾配に弱いので、切通しを造って緩斜面にして線路を敷いたのです。切通しのコンクリート斜面に、クズがびっしり繁茂しています。かつては、写真右側の壁にもあったのですが、駆除されたようです。

クズは、晩夏から初秋にかけては、赤紫色の花をつけるので目立ちます。田端のクズも秋になると花をたくさんつけていました。クズ（屑）なのに、あんなにきれいな花を咲かせるなんて！と、私は再びこの植物に興味を持ちました。

私は小学校の時から電車通学をしていたので、駅（京王線の平山城址公園駅）から自宅に帰る経路は、冒険と観察の場でした。住宅地の一番奥の荒地に廃屋があって、その周辺にクズの大群落がありました。もとは、何かの灌木があったようですが、廃屋も灌木もすっかりクズに覆われて、緑の山のようになっていました。よくその中にもぐって遊んだものです。私は、秋になったら田端のクズのように花が咲くだらうと思っていたのですが、1房も咲きませんでした。翌年も、その翌年も、ついに一度も咲きませんでした。あれだけの大群落だったのに、なぜ一度も花をつけなかったのか、今でもそのことが不思議です。



「クズの花」 *Pueraria lobata*

マメ科の花の特徴を備えています。こんなに大きくて立派な葉で、きれいな花を咲かせるのに、実（豆）は非常に貧弱でみすぼらしいです。クズは、一度繁茂すると駆除は難しく、意外に厄介な植物です。しかし、広い面積を緑で覆うので、きっとたくさんの酸素を生産しているはずです。

（お茶の水女子大学構内）

（お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋）